

文化の創造

本教の名は、救世教となつてゐるが、勿論最後の世の救の為に現われたのであるから名実共に間違つてはいないが、一名創造教と言つてもいい、それを説明してみよう。

抑々現在迄何十世紀に亘つて、人類は文化を進歩発展させようとして、嘗々撓まず、屈せず、総力を尽して今日に到了た事である。為に現在見るが如き驚くべき絢爛たる文化を作り上げたのであるから其功績は称へても称へ尽せない程である。それは勿論人類の幸福を理想として来た事は言うまでもないが、

事実は余りにも予期に反した事であるというのは彼の原子核破壊の発見である。一瞬にして何百万の生靈を奪い去るというのであるから、恐怖戦慄などの言葉でも、まだ言ひ足りない程のものである。

恐らく、幸福を目標として来た夢が想像もつかない程裏切られて了つた事である。斯んな大不幸が生れようなどとは、誰か予測し得たであらう、恐らく人類史上、之れ程意外な喰違いがあつたであらうか、是に於いて人類少なくとも文化人は、此事の真因を徹底的に突止めなくてはならぬい、其真因を知つて解決しない内は、

今後の文化の進歩は何等意味をなさない事にならう。然しひら原爆と雖も、戦争の兵器に使用するから、恐るべき悪鬼となるが、そうでないとすれば、素晴らしい平和の天使となるのは勿論である。

此理によつて、実は原爆を問題視するには当らない訳だ。問題は戦争そのものにあるので何といつても戦争絶滅より以上、重大問題は絶対あり得ないのである。とは言うものの幾千年前から戦争の脅威から免れようとして、全人類は如何に最大限の努力を払つて来たかで之は何人も知り

過ぎる程知る処である、にも拘わらず、戦争の脅威は依然たるばかりか、

寧ろ回を重ねる毎に反つて増大しつつある事実である。

勿論人口増加の為もあらうが、兵器の進歩はそれ以上の脅威を加えている、遂に其極限的に現われたのが原爆であつてみれば、此発見こそ最早人類から戦争に終止符を打つべき運命が近づいた事の示唆でなくて何であろう。キリストの曰われた、最後の世とは此事であると私は信ずるのである。

斯う考へてくると、既成文化なるものは成功ともいえるが、其成功を抹殺する程の大失敗も認めない訳には行くまい、

之によつて之をみれば、以上述べた如き既成文化失敗に目醒めて然る後劃期的新文化の創造に乗り出すべきが本當であらう、いわば文化の再出発である、然らば右の新文化の創造とは何か、之が現人類的一大課題である。

それに応えるべく、顯現されたのが本教である事を信ずるのである、されば此重任を引提げ、茲に我が救世教は地上天国建設の大偉業を神命のまま遂行せんとするのである、先ず其、基本的条件として、人類から病いを除去する事を宣言し、実行し現に素晴らしい成果を挙げつつあるにみて、多くをいう必要はあるまい、

言う迄もなく、戦争の真の原因は病氣である、病氣といつても肉体の病氣のみではない、精神の病氣である。それは狂っていない精神病者である、人類からこの狂はない精神病者を健全に導く事こそ根本的解決策であらう。之以外

戦争絶滅などは痴人の戯言にすぎない事を信ずるのである。

（第六十九号 昭和二十五年九月十三日）